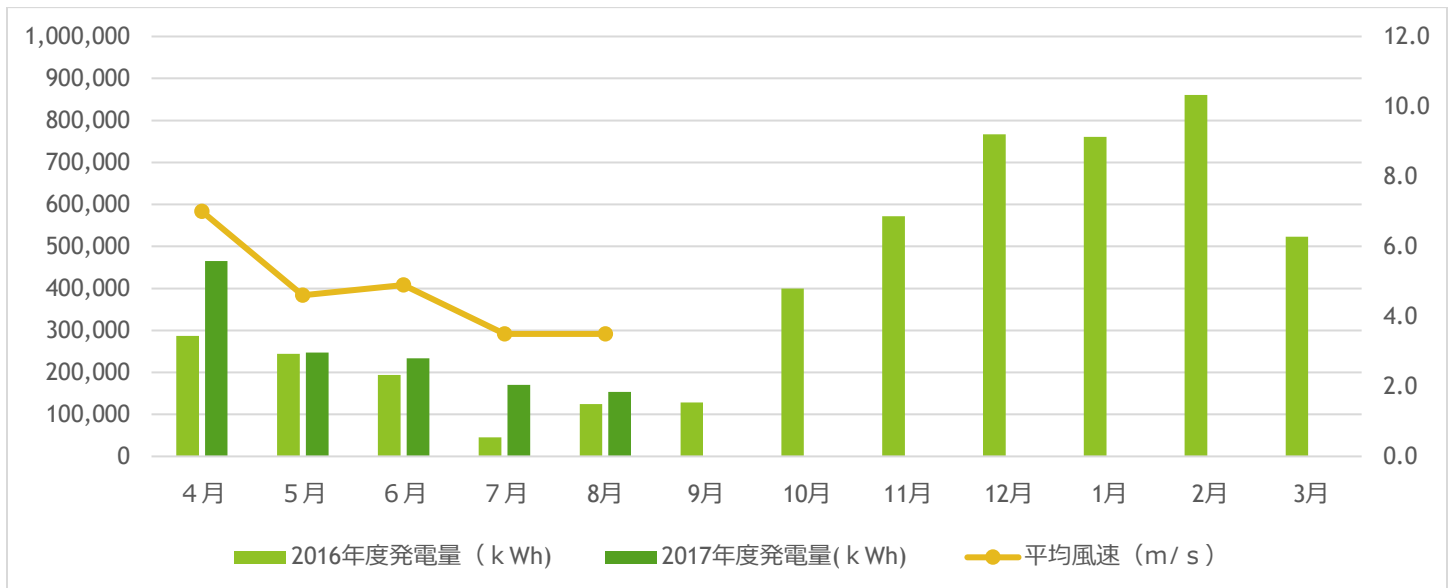


秋田県にかほ市に生活クラブ東京・神奈川・埼玉・千葉が建設した生活クラブ風車「夢風」に関するニュースをお届けします。

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 1-6-9 大内ビル3F 一般社団法人グリーンファンド秋田

発行責任者 半澤彰浩(代表理事) 編集責任者 西村明子

○ 発電実績



風車「夢風」運転状況について

- 風況は昨年同月に比べ0.2m/s高い実績でした。

にかほ市周辺の情報

- 実りの秋を向かえ、北限のいちじくの収穫が始まります。
- 鳥海山は山頂付近から紅葉が始まります。
(4面のにかほ市情報で詳しくお伝えしています)

	発電量 (kWh)	平均風速 (m/s)	稼働率 (%)
4月	465,321	7.0	92.6
5月	247,330	4.6	84.5
6月	233,257	4.9	82.9
7月	170,227	3.5	84.9
8月	153,380	3.5	97.9
9月			
10月			
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			

生活クラブ風車「夢風」5周年記念イベントを行いました。

7月29日(土)7月30日(日)の二日間にわたって、生活クラブ風車「夢風」5周年記念イベントを行いました。

7月30日(日)は、にかほ市福祉交流センタースマイルにて、にかほ市と生活クラブ東京・神奈川・埼玉・千葉、グリーンファンド秋田との連携推進協議会の主催で、生活クラブ風車「夢風」建設5周年記念フォーラムを開催しました。

まず、生活クラブ千葉の木村庸子理事長より主催者挨拶を、にかほ市副市長須田正彦様よりご来賓あいさつをいただきました。その後、ドキュメンタリー映画「おだやかな革命」の全国初上映が行われました。この映画は、山形県鶴岡市在住ドキュメンタリー映画監督の渡辺智史監督が2年前から取材を重ね制作したものです。2015年夏には生活クラブ風車「夢風」の取材も行い、映画の中でもこの取り組みについて丁寧に語られていました。映画は今後全国に向けて公開される予定です。

映画上映の後は、「自然エネルギーによる持続可能でしなやかな地域社会をつくる～人口減少社会を希望ある転換期へ～」と題してパネルディスカッションが行われました。パネリストは映画にも登場した会津電力(株)



代表取締役(全国ご当地エネルギー協会代表)佐藤彌右衛門様、やまがた自然エネルギーネットワーク事務局次長 山田幸司様、渡辺智史監督、名古屋大学大学院環境学研究科教授 丸山康司様、にかほ市副市長 須田正彦様、生活クラブ生協神奈川理事長 藤田ほのみ様、コーディネーター生活クラブ生協神奈川専務理事 半澤彰浩の7名が登壇しました。限られた時間の中でしたが、私たちの進めている活動が持つ可能性と力を再確認する時間となりました。

第10期 第1回グリーンファンド秋田理事会を開催しました。

8月24日(木)グリーンファンド秋田東京オフィスにて第10期第1回グリーンファンド秋田理事会を行いました。

- 2017年度第1四半期決算報告について報告し承認されました。4月の風況が良かった事を受け、売電量は前年比131.2%と好調でした。
- 夢風建設5周年イベント開催報告と決算報告を行いました。
- にかほ市小中学校への環境教育の実施について報告しました。
- 東日本大震災復興支援まつりへの参加と協賛金の拠出について報告しました。
- 象潟花火大会への協賛金の拠出について報告承認しました。

「法政大学人間環境学部ゼミ合宿がにかほ市で行われました」

昨年に引き続き2回目となる法政大学人間環境学部の西城戸教授のゼミ合宿が、2017年8月20日(日)～22日(火)にかかほ市で行われ、学生30名ほどがかかほ市の方々と交流しました。

8月21日(月)には、生活クラブ風車の建つ芹田の加工用トマトの収穫を行いました。加工用トマトは生食用トマトとは違って、露地で無支柱で栽培されます。ですので、収穫も低い姿勢で大変な作業ですが、約3反という広い圃場も、大ぜいの学生さんの手で収穫すると、約1時間半ほどで赤いトマトをすべて取ることができました。この日の収穫は20キロ箱で46箱、合計



920キロとなりました。採れたてのトマトは、旨みがギッシリ詰まっていてそのまま食べても美味しかったです。お昼は、収穫のお手伝いのお礼に、芹田自治会館で、婦人部の方の手作りのカレーをいただき、交流をさせていただきました。どうもありがとうございました。

生活クラブ埼玉 ベっぴんさんいちじくと私

秋田県にかかほ市は、夫の祖父の出身地です。不思議な縁を感じます。きっといちじくの甘露煮やハタハタを食べ、お酒の大好きなじいちゃんだったから飛良泉のお酒を飲んでいたのでらうと思います。

昨年秋にグラニュー糖でいちじくを煮た「ベっぴんさんいちじく」を作るための話し合いに、佐藤勘六商店の



昨年の「いちじくいち」で、いちじくを売る
佐藤玲さん

佐藤玲さんのところへ行った折に、ちょうど廃校になった小学校を会場に「いちじくいち」を開催しているというので、見学をしてきました。

生のいちじくを買うために長蛇の列が出来ていてびっくりしました。本当に秋田の皆さんはいちじくを自宅で煮て食べるのだなということがわかりました。いちじく甘露煮は秋田のソウルフードと言った玲さんの言葉がよみがえりました。

「ベっぴんさんいちじく」を作った仲間と色々な食べ方を試作し、チーズや生ハムと合わせてみたり、ドレッシングに入れたりとたくさんレシピが出来ました。また、風車建設5周年イベントの時に佐藤さんのいちじくカレーを試食してとても美味しかったので、今度は家でも作ってみようと思います。

風車「夢風」をにかほ市に建設したことで、にかほの皆さんとのつながりが出来て様々な体験をさせていただきました。天国のじいちゃんにもにかほの話をいっぱいしたいな、「べっぴんさんいちじく」も食べてもらいたかったなあと思います。なんだか「にかほ市」が故郷のような気がしてきました。

生活クラブ埼玉理事 澁谷起代子

風車 5 周年記念イベントの際、風車の前で記念写真。前列右端が筆者



にかほ市情報

生活クラブ生協の皆さん、秋田県にかほ市観光課の荒川正人と申します。「トマトの里」芹田の出身です。よろしくお願ひします。

今回は、本市の秋についてご紹介します。

秋と言えば、収穫の秋であり、本市でも米、野菜など農作物はたくさんありますが、ここならではの・・・と言えば「北限のいちじく」です。9月から収穫を始め、甘露煮もおすすりめですが、生食も絶品。今ではイベント「いちじくいち」が行われるほど注目の食材です。今年は10月7日と8日に開催されますので、興味がある方は『いちじくいち』で検索してみてください。

また、海産物では一部で幻のエビと言われるクロザコエビ(トゲザコエビ)が9月から11月に獲れます。地元では「ガサエビ」と呼ばれていますが、日本海岸でしか獲れず、鮮度の落ちが早いので、遠くの市場に送ることが難しく、主に地元で消費されています。なかなか食べられない幻のエビを是非、本市に来てご賞味ください。

最後に、本市のシンボル鳥海山をご紹介します。

9月から11月には、紅葉を楽しむことができます。にかほ市の標高は0mから約1,200mまであり、秋の紅葉も同じ市内なのに場所によって時期が違うのが特徴です。車で行ける範囲で一番標高が高い登山基地「鉾立(1,150m)」では、9月下旬から10月中旬に見頃となり、鳥海山の中腹にある「中島台レクリエーションの森と獅子ヶ鼻湿原(500m)」では10月下旬から11月上旬が見頃を迎えます。

このように、「秋」を食と肌で感じられる「にかほ市」にお越しください。

